

# エネクス株主通信



社会とくらしのパートナー

伊藤忠エネクス株式会社

証券コード 8133

第60期中間期事業のご報告 2019年4月1日から2019年9月30日まで



## Contents

トップメッセージ	1	教えて エネクス!	8
中期経営計画の進捗について	3	特集: エネクスグループの社会貢献活動	9
セグメント別情報	5	ESGの取り組み	11
連結財務諸表	7	会社概要/株式の状況	13
株主様アンケート調査結果	8	株主の皆様へのお知らせ	14

# 『Moving2020 翔ける』 さらなる飛躍を目指して

伊藤忠エネクス株式会社  
代表取締役社長

岡田 賢二



株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。  
2019年度上期における当社株主に帰属する四半期純利益は、52億円となりました。  
なお、営業活動に係る利益は、上期における過去最高益となりました。

当社グループは現在、2020年度を最終年度とする、中期経営計画『Moving2020 翔ける』に取り組んでおります。2014年度より始まったMovingシリーズの経営計画において、当社グループは着実に成長してまいりました。外部環境の変化に対し、しなやかに変革するための準備期間として、社内改革の実行や、自動車ディーラー事業に参入した『Moving2014 「動く!」』。将来への布石を打つ期間として、電力の小売全面自由化への対応、海外展開を行った『Moving2016 「動く!」～明日(あした)にタネを蒔け!～』。つづく『Moving2018 つなぐ 未来』では急激な成長による歪みを修正するため、収益基盤の再構築と組織基盤の再整備を実行しました。今回の『Moving2020 翔ける』は飛躍の期間と位置づけ、お客様への新たな価値提供にこだわり、国内はもとより海外展開も積極的に進めます。

株主の皆様におかれましては、今後ともご理解とご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

## 経営理念

社会とくらしのパートナー  
～エネルギーと共に・車と共に・家庭と共に～

当社グループは、「社会とくらしのパートナー」として、石油製品、LPガス、電気等のエネルギーの安定供給を通じ、地域に根差し、地域に住まう人々の生活に寄り添ってまいりました。豊かなくらしと共に、心を育むエネルギーをお届けすることを使命とし、今後お客様が必要とされるエネルギーをお届けいたします。

計画名称



基本方針

～成長戦略の推進～

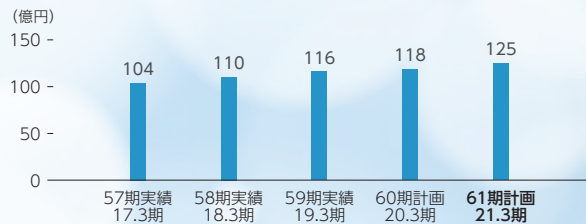
1 収益基盤の維持・深化	グループシナジーの追求、顧客基盤の更なる活用
2 海外・周辺分野の開拓	海外事業への積極投資と周辺事業のM&A
3 新規事業の創出	環境関連ビジネス等の推進

～組織基盤の進化～

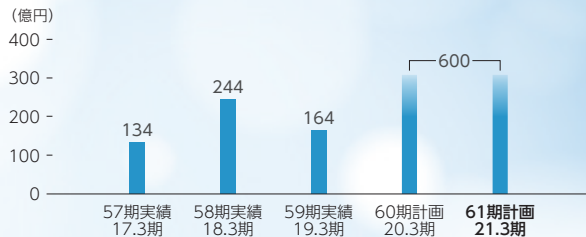
1 グループ経営の強化	連結経営管理の高度化と実効性のあるガバナンス体制の構築
2 成長を支える人材戦略	ダイバーシティの推進及びグローバル人材の育成
3 イノベーションの推進	既存事業の効率化追求とデジタル技術活用

定量計画 (2020年度)

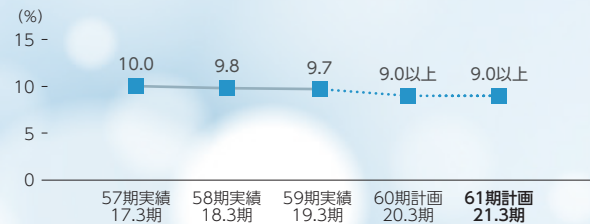
当社株主に帰属する当期純利益 125億円



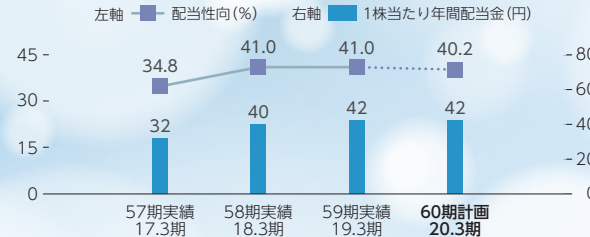
投資計画(2ヵ年累計) 600億円



ROE(株主資本当期純利益率) 9.0%以上



株主還元 連結配当性向 40%以上



中期経営計画の達成に向け順調なスタート

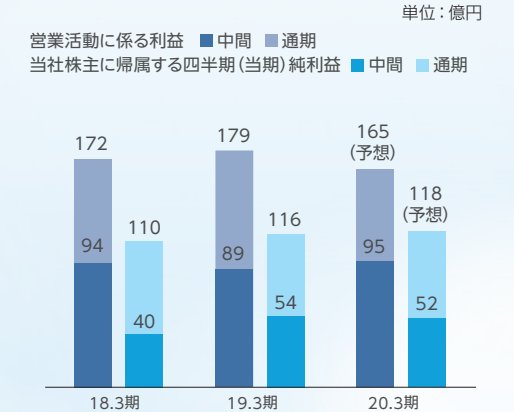
国内エネルギー業界は、石油元売の統合、電力・ガスの小売全面自由化による異業種からの参入、業界の垣根を越えた連携、気候変動への世界的な環境意識の高まり等、取り巻く状況は大きく変化しております。

このような環境のもと、当社グループは、2019年度より、2ヵ年の中期経営計画『Moving2020 翔ける』を公表し、左頁の基本方針に基づき、事業を推進しております。

この中期経営計画の取り組みを通じ、当社グループは、これまでに築き上げてきた基盤を生かし、さらなる飛躍の期間と位置づけ、グループの力を結集し次なるステージを目指します。

計画初年度の今期は、定量面においては、当社株主に帰属する四半期純利益は、52億円(前年同期比3億円減)となりました。なお、営業活動に係る利益は上期としては、過去最高益となり、順調なスタートとなりました。下記トピックスを実施する等、引き続き計画達成に向け動いてまいります。

業績の推移



2019年度上期の主なトピックス

1 伊藤忠エネクスホームライフ 四国(株)を設立

4月、伊藤忠エネクスホームライフ西日本(株)の四国支店と愛媛日商プロパン(株)、高知日商プロパン(株)を経営統合し、伊藤忠エネクスホームライフ四国(株)を設立しました。統合により、顧客基盤の融合、業務の効率化とコスト競争力の強化を実施します。また、四国エリアに新会社を設立することで、これまで以上にお客様に密着し、地域に根差した事業展開を推進してまいります。



2 川崎フロンターレとの電気販売の協業開始

当社グループの(株)エネクスライフサービスは、7月にサッカーJリーグの(株)川崎フロンターレとスポンサー契約を締結し、同時にサポーター向けの電力サービス「フロンターレでんき」の提供を開始しました。「フロンターレでんき」は、電気料金の1%がサッカー選手の育成を行う「川崎フロンターレアカデミー」の強化費となります。本取り組みを通して、地域活性化やスポーツ振興、次世代育成への貢献を目指してまいります。



左:川崎フロンターレ 薬科社長  
右:エネクスライフサービス 田中社長  
©KAWASAKI FRONTALE

3 ダイバーシティ推進室を新設

4月、当社グループのダイバーシティ推進を目的として「ダイバーシティ推進室」を設置しました。上期には全国の社員にアンケートを実施し、現状の問題点や現場の声をヒアリングしました。「最も大切な財産は“人”である」という創業当時の考えに基づき、これまで以上に誰もが活躍できる会社を目指し、人事制度を含む諸制度の改定や環境整備を進めてまいります。



## ホームライフ事業

家庭用・業務用のエネルギー、人々の豊かで快適な暮らしのご提案



### 主な取扱製品・サービス

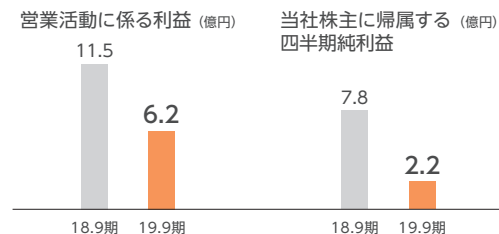
LPガス、  
家庭用スマートエネルギー機器、  
都市ガス、  
電気、産業用ガス、  
快適生活のご提案

### 当中間期の概況と取り組み

当事業部門において、LPガス事業につきましては、LPガス直売顧客軒数が前期末とほぼ同数の約551,000軒となりました。LPガス販売数量では、直売の販売数量は前年並みとなりましたが、卸販売やオートガスの販売数量の減少により、前年同期を下回りました。損益面では、販売は堅調に推移したものの、LPガス輸入価格下落に伴う在庫影響により前年同期を下回りました。家庭向け電力販売事業につきましては、LPガスとのセット販売を中心に顧客基盤の拡大を推進し、顧客軒数は約9,000軒増加し、約91,000軒となりました。損益面では、顧客の増加等により前年同期を上回りました。

産業ガス販売事業及び容器検査事業につきましては、窒素販売における前年度特殊要因の反動や、市況の影響による炭酸ガス販売の減少により、販売数量、損益ともに前年同期を下回りました。

海外事業につきましては、フィリピンにおけるLPガス販売事業、インドネシアにおける工業ガス販売事業ともに、国内で培ったノウハウを活かし今後も拡大路線を継続してまいります。



## 生活・産業エネルギー事業

石油製品からクルマ、電力、産業まで、地域の生活と産業の担い手



### 主な取扱製品・サービス

ガソリン、灯油、軽油、重油、  
LPガス、電気、自動車、レンタカー、  
生活・車関連商品サービス、  
AdBlue、アスファルト、船舶用燃料、  
石油製品輸出入、ターミナルタンク  
賃貸、石炭灰リサイクル、  
スロップ回収・リサイクル

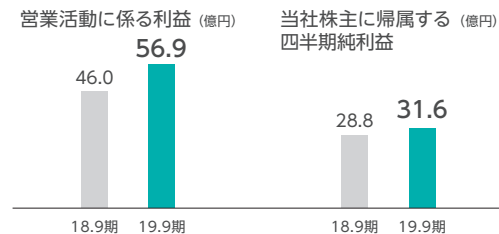
### 当中間期の概況と取り組み

当事業部門において、CS<sup>\*1</sup>事業につきましては、石油需要の構造的な減少により、当社グループのCS数は前期末より24ヵ所減少し1,742ヵ所となりましたが、小売市況が堅調に推移したことにより、損益面では前年同期を上回りました。

自動車関連事業につきましては、自動車ディーラー事業を行っている子会社の大阪カーライフグループでは、2019年3月末に発売された新型デイズをはじめ、人気車種のノート、セレナ等の新車販売が堅調に推移し、販売台数、損益ともに前年同期を上回りました。

環境関連事業につきましては、GTL<sup>\*2</sup>、アドブルー<sup>\*3</sup>の販売やフライアッシュ事業、PCB処理の幹旋などの環境関連ビジネスの拡大に努め、環境負荷低減につながる活動を引続き進めてまいります。

\*1 CSとは、カーライフ・ステーションの略であり、当社が提案する複合サービス給油所です。  
\*2 GTLとは、Gas To Liquidsの略であり、天然ガスからガソリン、灯油、軽油等を製造する技術。硫黄、金属等をほとんど含まない環境対応型燃料製造方法です。  
\*3 アドブルー (AdBlue) とは、ディーゼル車の排気ガス中の窒素化合物 (NOx) を無害化する「SCRシステム」に使用される高品位尿素水です。



## 電力・ユーティリティ事業

省エネと快適性、経済性を追求した発電、需給調整から電力販売、地域熱供給



### 主な取扱製品・サービス

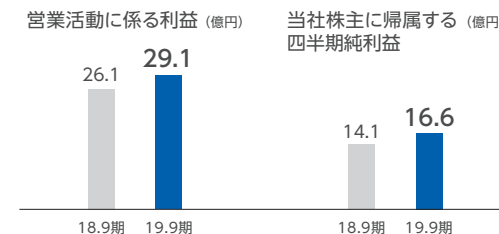
電力、蒸気、熱供給、  
総合エネルギーサービス

### 当中間期の概況と取り組み

当事業部門において、電力事業の電力販売分野では、家庭向けを中心とした低圧販売量は増加しましたが、法人向け大規模高圧契約の減少により小売電力販売量は前年同期を下回りました。当分野では、2019年7月よりプロサッカークラブの川崎フロンターレと協業し「フロンターレでんき」の提供を開始する等、エリアに強い顧客基盤を持つ企業や異業種と提携しながら、積極的に投資を行うことで、低圧領域へのシフトに対応した販売戦略を展開しております。金融分野では、太陽光発電設備等を中心とした再生可能エネルギー発電設備等を安定的にエネクス・インフラ投資法人に供給することを通じ、再生可能エネルギーの普及・拡大を推進してまいります。

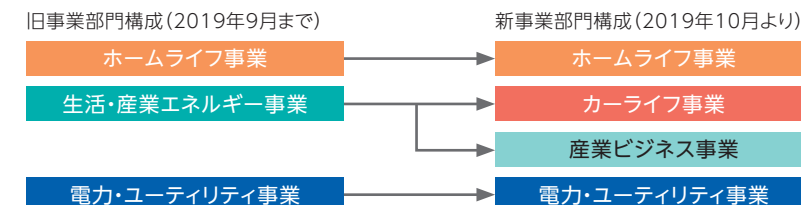
また、熱供給事業<sup>\*4</sup>につきましては、気温が前年同期に比べ低く推移したことにより、熱需要、損益ともに前年同期を下回りました。多様化する顧客のニーズに応えられるよう、引き続き総合的なエネルギーサービス事業<sup>\*5</sup>を推進してまいります。

\*4 熱供給事業とは、熱源プラントから複数の建物、オフィスビル等に、冷房・暖房等に使用する冷水・温水を導管で供給する事業です。  
\*5 エネルギーサービス事業とは、エネルギーの利用に際しお客様に代わり、電気・熱源設備等を所有し空調用冷水や給湯用温水、蒸気等を供給する事業です。



### 事業部門構成を改編しました

地域ネットワーク基盤のさらなる強化と新規事業の早期確立を目的に、右記の部門構成の改編を行いました。外部環境の急速な変化の中、迅速な意思決定としなやかな変革を図ります。



### 改編後のセグメント別定量計画 (億円)

	当社株主に帰属する当期純利益		
	19.3期実績	20.3期計画	21.3期計画
ホームライフ事業	31	30	33
カーライフ事業	51	38	44
産業ビジネス事業	17	19	20
電力・ユーティリティ事業	20	33	31

当社グループの第60期中間期(2019年度第2四半期)業績と財務状況をご報告します。

四半期連結財政状態計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期末 (2019年9月30日)	前期末 (2019年3月31日)
流動資産	174,533	199,775
非流動資産	235,046	174,598
資産合計	409,579	374,373
流動負債	156,613	165,463
非流動負債	106,578	64,344
負債合計	263,191	229,807
資本金	19,878	19,878
資本剰余金	18,919	18,922
利益剰余金	88,321	86,769
その他の資本の構成要素	△1,582	△1,406
自己株式	△1,870	△1,873
株主資本	123,666	122,290
非支配持分	22,722	22,276
資本合計	146,388	144,566
負債及び資本合計	409,579	374,373

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期累計 (2019年4月1日～ 2019年9月30日)	前第2四半期累計 (2018年4月1日～ 2018年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,138	9,745
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,240	△1,758
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,765	△5,736
現金及び現金同等物の増減額	2,663	2,251
現金及び現金同等物の期首残高	18,725	22,573
為替相場の変動による現金及び現金同等物への影響額	△3	26
現金及び現金同等物の四半期末残高	21,385	24,850

四半期連結包括利益計算書(要旨)

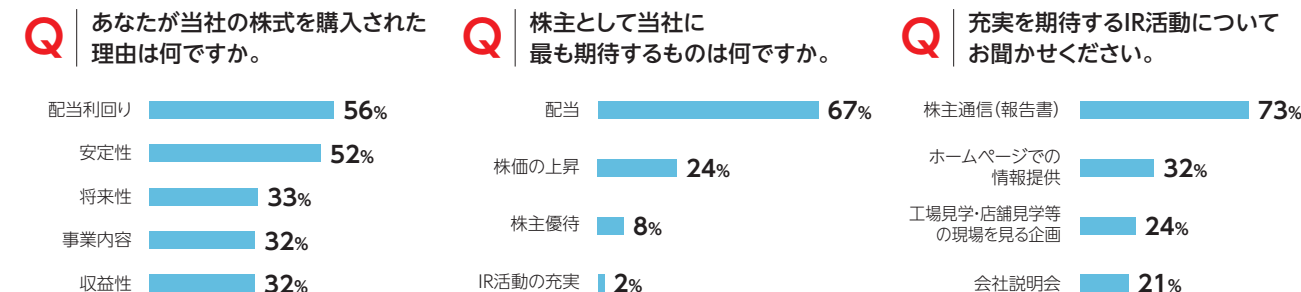
(単位:百万円)

科目	当第2四半期累計 (2019年4月1日～ 2019年9月30日)	前第2四半期累計 (2018年4月1日～ 2018年9月30日)
売上高*	548,143	606,834
売上収益	439,099	475,378
売上原価	△396,818	△434,045
売上総利益	42,281	41,333
その他の収益及び費用	△32,754	△32,449
営業活動に係る利益	9,527	8,884
金融収益及び金融費用	△509	△348
持分法による投資損益	663	856
税引前四半期利益	9,681	9,392
法人所得税費用	△3,213	△2,830
四半期純利益	6,468	6,562
当社株主に帰属する四半期純利益	5,184	5,447
非支配持分に帰属する四半期純利益	1,284	1,115
その他の包括利益(税効果控除後)	△176	518
四半期包括利益	6,292	7,080
当社株主に帰属する四半期包括利益	5,008	5,965
非支配持分に帰属する四半期包括利益	1,284	1,115

\*「売上高」は、日本の会計慣行によるものであり、当社及び当社の連結子会社が契約当事者として行った取引額及び代理人等として関与した取引額の合計であります。

株主様アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

昨年の中間報告書の際にお願いいたしましたアンケートの集計結果(上位項目)についてご報告申し上げます。ご回答いただきました株主の皆様、ご協力ありがとうございました。当社グループは、今後も定期的に株主様アンケートを実施し、得られた調査結果を貴重なご意見として、今後の活動へ反映させてまいります。



教えて エネクス! Enex Q&A

**こんなところにも エネクス** 株主の皆様から当社グループの事業がわかりづらいとの声をいただくことがあります。そこで今回は、実は皆様のくらしの身近なところにある当社グループの事業をいくつかご紹介させていただきます。

この他にも様々な場所で事業を展開しています。合わせてこちらをご覧ください。

**アスファルト事業**

アスファルト販売の国内シェアは約20%となっています。アスファルト道路の5歩に1歩は当社グループがお届けしたアスファルトです。

**産業用ガス事業**

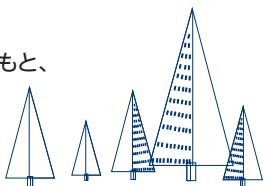
ビールや清涼飲料に用いられるシュワシュワの炭酸ガス、食品酸化防止用の窒素、生命の維持に欠かすことのできない医療用酸素等、様々なシーンで必要とされている産業用ガスも販売しています。

**自動車ディーラー事業**

日産自動車系で全国最大規模、大阪府下唯一の自動車ディーラーである「日産大阪販売(株)」も当社グループです。日産自動車の新車販売、中古車販売から車検、板金、整備、メンテナンス事業まで行っています。

## エネクスグループの社会貢献活動

当社グループは、経営理念「社会とくらしのパートナー～エネルギーと共に・車と共に・家庭と共に～」のもと、多様な価値創造を提供する事業活動と共に社会に貢献する活動を行うことで、皆様の豊かなくらしの実現と社会の持続的発展への寄与に努めています。



### 基本方針：「社会とくらしのパートナー」として未来につなぐ 環境づくり・人づくり・コミュニティづくり

#### 社会貢献活動の3つのテーマ



- 経営理念「社会とくらしのパートナー」を基本に、事業活動と共に良き企業市民として社会に貢献します。
- 次世代を育む環境づくり・人づくり・コミュニティづくりをテーマに、持続可能な社会を未来に引き継ぐ活動を行います。
- 社員が一市民として行う社会貢献活動を支援します。
- 社会貢献活動の内容・成果を積極的に開示し、社会と共有します。

### 障がい者の自立を支援するエネクスカレンダー



当社では、毎年制作しているオリジナルカレンダーのデザインに、障がい者の方の作品を起用しています。起用している作品は、社会福祉法人東京コロニーのアートビリティからお借りしており、その使用料が障がい者の自立支援につながっています。また東京コロニー主催の年間で最も活躍した障がい者アーティストを決めるアートビリティ大賞にも協賛し、障がい者の自立支援と社会参加を応援しています。

当社株式を100株以上所有する株主の皆様にはこの卓上カレンダーを毎年12月上旬に送付いたしておりますので、ぜひご使用ください。お取引先様やグループ会社も同じデザインの壁掛けカレンダーをご利用いただいています。

### ことばの力を楽しむ会 広島公演 ～語りつぎたいものがたり～

東日本大震災で被災された方々を応援する目的で開始した当社主催の社会貢献朗読会イベント「ことばの力を楽しむ会」。今年は9月28日に広島市で第10回を開催いたしました。元アナウンサーの山根基世さんと、進藤晶子さんの朗読、ゲストはアメリカ人で詩人のアーサー・ビナードさん、そして音楽は広島出身のアーティストを招きクラリネット、アコーディオン、タンバリンの演奏で、こどもから大人までが楽しめる趣向をこらしたところをつなぐイベントとなりました。会場内では任意の募金を呼びかけ、集まった募金はふくしまこども寄附金、西日本集中豪雨、台風15号の復興支援金として全て寄附いたしました。今後も継続して開催する予定です。



### 飢餓を救う「WFPウォーク・ザ・ワールド」

世界の飢餓を救うチャリティイベント「国連WFPウォーク・ザ・ワールド」に協賛し、貧困国の飢餓救済に貢献しています。今年5月に開催されたイベントでは、当社グループ総勢60名の社員と家族が当社のボランティア活動支援制度のもと参加。参加費の一部が貧困国の学校給食プログラムとして、こども達の健全な成長や教育機会に役立てられています。



### 飲料水を寄贈

当社で保存していた災害用備蓄食糧品や保存水の入替のタイミングで、福島県のNPO法人「FUKUSHIMA いのちの水」へ寄贈しています。大量の災害用備蓄食糧品や保存水を廃棄物として処分するのではなく、期限が切れる前に寄贈し、福島県の皆様にお役立ていただいています。2016年、2017年に続き、今年は2,400本の水(1本500ml入り)をお渡ししました。

社会貢献活動ムービーも合わせてご覧ください。



エネクスグループは、経営理念「社会とくらしのパートナー」のもと、エネルギーの恵みを全ての人に安定的にお届けすることを使命とし、常にお客様が真に求める価値とサービスをご提供することを追求します。

新しい時代に合う事業の推進と社会課題の解決、企業としての社会的責任の取り組みを通じて、人々の豊かなくらしと持続可能な社会の発展に貢献し続けてまいります。

エネクスグループが  
重点的に取り組むべき  
3つの領域



環境負荷低減  
(環境と共に)



多様な価値創造  
(社会と共に)



健全な事業活動  
(ガバナンス)

PICK UP! 社長・社外取締役対談

当社グループが取り組んでいる様々なESG課題のうち、今回は「多様性」をテーマに行われた、社外取締役の山根氏と当社代表取締役社長の岡田による対談の内容をピックアップします。

山根氏は、ガバナンスの実効性強化及び当社グループのダイバーシティ推進を主な目的として2019年6月当社初の女性取締役として就任しています。

## エネクスグループの多様性は次のステージへ

公平性を考えながら女性活躍の場を広げる

**岡田** 就任以来、圧倒的に少ない女性社員を増やすことに注力してきました。現在は全社員約650名中、女性社員は約120名と20%程まで増え、ようやく公平な議論ができる環境が整ったと思っています。

**山根** 事業所を視察した際、女性社員が生き生きと力を発揮しているのを感じました。



社外取締役  
山根 基世 氏

代表取締役社長  
岡田 賢二



**岡田** NHK時代に女性初のアナウンス室長として、女性活躍の場を広げる改革を断行されたと聞きました。

**山根** NHKでは男性アナウンサーには地方転勤がある一方、女性

アナウンサーは東京勤務が当たり前でした。室長になった時、男性の不公平感をなくし、女性に男性と同等の成長機会を与えるため、女性の地方転勤を制度化しました。思い切った改革でしたが、意欲ある女性達が力を発揮し続けていくには絶対に必要という危機感が背中を押しました。

### 多様な人材が育ち合いエネルギーの満ちた会社へ

**山根** 多様な人材を育てることについてはどう考えますか？

**岡田** 「人材を育てる」というより、「人材が育つ環境を整える」という方が私の考えに近いです。「人材を育てる」としても、育てる過程では双方向で得るものが多いのではないのでしょうか。

**山根** まさにそれが教育の本質ですね。

**岡田** 「育ち合い」が起されれば、会社の中にエネルギーが充満していきます。それが会社の持つエネルギーの総量になり、企業価値向上にもつながっていくと思います。

#### 山根基世氏プロフィール

早稲田大学文学部卒業後、NHKにアナウンサーとして入局。報道、教養番組等で活躍。「ラジオ深夜便」、「映像の世紀」等大型シリーズのナレーションを担当。05年、女性初のアナウンス室長に就任。退職後はフリーアナウンサーとして司会や朗読会等で幅広く活躍。当社の社会貢献活動「ことばの力を楽しむ会」では初回から朗読を担当。

### 一人ひとりの違いを認め、お互いに尊重し合える環境を

**山根** エネクスの多様性には岡田さんの draconian リーダーシップを感じます。

**岡田** 私は単純に「窓を開ければいい」と思っています。いい会社になるために窓を開け、多様性と創造性が豊かな状態にしていく、それが私の方針です。

**山根** 多様性を突き詰めて考えると、基本は一人ひとりの尊厳を大切にすることだと思います。

エネクスにいる理由、果たすべき役割を真剣に考え、志を持つことが大切です。エネクスにはそういう気づきができる環境と経験をたくさんさせてあげてほしいです。

**岡田** 社員には「多様性」という言葉に振り回されず、自分との違いを互いに面白がり、大事にすることからスタートしてほしいです。私も社員の声に耳を傾け、一人ひとりが力を発揮できる環境を作り、ここで働いて良かったと思ってもらえる会社になりたいと思います。



本対談のロングバージョンを  
当社HPにて公開中です。  
合わせてご覧ください。



会社名	伊藤忠エネクス株式会社
英文社名	ITOCHU ENEX CO.,LTD.
ホームページ	https://www.itcenex.com
本社所在地	〒100-6028 東京都千代田区霞が関三丁目2番5号
設立年月日	1961年(昭和36年)1月28日
資本金	198億7,767万円
従業員数 (2019年3月31日現在)	単体 641名(関係会社への出向者186名含む) 連結 5,619名

主なグループ会社 (2019年10月1日現在)

伊藤忠エネクスホームライフ北海道(株)	エネクス石油販売東日本(株)
伊藤忠エネクスホームライフ東北(株)	エネクス石油販売西日本(株)
伊藤忠エネクスホームライフ西日本(株)	(株)九州エナジー
伊藤忠エネクスホームライフ四国(株)	小倉興産エネルギー(株)
(株)エコア	大阪カーライフグループ(株)
(株)エネアーク	エネクス電力(株)
伊藤忠工業ガス(株)	東京都市サービス(株)
PT. ITC ENEX INDONESIA	(株)エネクスライフサービス
エネクスフリート(株)	王子・伊藤忠エネクス電力販売(株)
エネクスオート(株)	エネクス・アセットマネジメント(株)

役員 (2019年10月1日現在)

代表取締役社長 岡田 賢二	取締役(兼)常務執行役員 若松 京介	取締役(兼)常務執行役員 勝 厚	取締役(兼)常務執行役員 普世 肅久
取締役(兼)常務執行役員 清水 文雄	取締役(社外) 新保 誠一	取締役(社外) 佐伯 一郎	取締役(社外) 山根 基世
取締役 大久保 尚登	常勤監査役(社外) 社塚 裕二	常勤監査役(社外) 砂山 豊宏	監査役(社外) 徳田 省三
監査役 高井 研治	常務執行役員 松塚 啓一	執行役員 鶴岡 敏幸	執行役員 内海 達朗
執行役員 福嶋 岳夫	執行役員 近藤 茂	執行役員 茂木 司	

※ 新保誠一氏、佐伯一郎氏、社塚裕二氏、徳田省三氏は東京証券取引所が定める独立役員として届出を行っております。

株式総数及び株主数

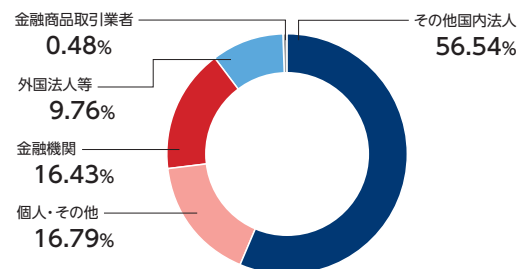
発行可能株式総数	387,250,000 株
発行済株式の総数	116,881,106 株
株主総数	10,050 名
1単元の株式数	100 株

大株主の状況

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
伊藤忠商事株式会社	60,977	53.97
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	5,473	4.84
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,044	3.58
エネクスファンド	3,154	2.79
JXTGホールディングス株式会社	2,009	1.78
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	1,580	1.40
日本生命保険相互会社	1,542	1.36
GOVERNMENT OF NORWAY	1,539	1.36
伊藤忠エネクス従業員持株会	1,135	1.01
前田道路株式会社	956	0.85

※ 持株比率は自己名義株式(3,893千株)を控除して計算しております。

株式の所有者別状況



※ 自己名義株式3,893千株は、個人・その他に含めております。  
※ 単元未満株式61,706株を除外しております。

配当金のお受け取りについて

中間配当金領収証による配当金の払渡期間は2019年12月4日から2020年1月17日までとなっております。  
口座振込をご指定されていない株主様は、同封の中間配当金領収証をご持参のうえ、お近くのゆうちょ銀行全国本支店及び出張所並びに郵便局(銀行代理業者)にてお早めにお受け取り願います。

お受け取り期間が過ぎたら・・・

お受け取り期間を過ぎますと、ゆうちょ銀行、郵便局でのお受け取りはできません。中間配当金領収証の表面の受領印欄にご押印のうえ、三井住友信託銀行の本支店の窓口でお申し出になるか、中間配当金領収証の裏面記載の送金方法欄に必要事項をご記入のうえ、三井住友信託銀行証券代行部までご郵送ください。

配当金領収証を紛失されたら・・・

三井住友信託銀行証券代行部までご連絡ください。その際には、お支払の手続きに時間を要しますので予めご了承ください。

銀行振込等のご指定をおすすめします

配当金領収証による配当金のお受け取りは、お忘れになることもありますので、安心・確実な銀行振込等によるお受け取りをおすすめいたします。

(お手続きは口座を開設されている証券会社等で行ってください)

株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記のお問い合わせ先にご連絡ください。

お問い合わせ先

特別口座の口座管理機関

三井住友信託銀行株式会社

☎0120-782-031

通話料無料／平日午前9時～午後5時

株主メモ

■ 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

■ 定時株主総会 毎年6月開催

■ 基準日 定時株主総会 毎年3月31日  
期末配当 毎年3月31日  
中間配当 毎年9月30日  
その他必要があるときは、予め公告して定めた日

■ 公告の方法 当社のホームページに掲載します  
https://www.itcenex.com  
(ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に掲載して行います)

■ 株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社

■ 株主名簿管理人事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒168-0063  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎0120-782-031(平日午前9時～午後5時)

(インターネットホームページURL) https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html

■ 上場証券取引所 東京(銘柄名 エネクス、証券コード 8133)

単元未満株式(100株未満)の買取請求について

単元未満株式の買取のお手続きは、口座を開設されている証券会社等にご依頼ください。特別口座に登録されている株主様は、三井住友信託銀行株式会社(フリーダイヤル:0120-782-031)へお問い合わせください。

この株主通信に記載されている伊藤忠エネクスの業績見通し等、将来に関する情報は、現段階における各種情報に基づいて当社の経営陣が判断したものであり、実績は、為替レート、市場動向、経済情勢等の変動により、かかる情報と大きく異なる可能性があることを予めご承知おきください。

この報告書は、環境に配慮した用紙・インキを使用しています。  
見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



# コーポレートサイトをリニューアルしました!

この度、コーポレートサイトをリニューアルしました。

今回のリニューアルでは、ブランドデザインを一新。会社情報、事業紹介、IR情報等のコンテンツをシンプル化し、情報をわかりやすく整理いたしました。

また、コンテンツにおいては、当社グループをより多くの方に知っていただきたく、「What's ENEX」を新設しました。

今後も、より一層内容を充実させ、利便性の向上に努めてまいります。



伊藤忠エネクス(株)コーポレートサイト  
<https://www.itcenex.com>

リニューアルに伴いまして、メール配信サービスが変更となっております。改めてご登録をお願いいたします。

<https://www.itcenex.com/ja/ir/support/mail/index.html>



## 株主の皆様の声をお聞かせください

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。  
所要時間は5分程度です。



<https://www.e-kabunushi.com>  
アクセスコード 8133

いいかぶ

検索

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2カ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円分)を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(エー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。  
(株式会社 a2mediaについての詳細 <https://www.a2media.co.jp>)  
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ  
「e-株主リサーチ事務局」

TEL: 03-6779-9487(平日 10:00~17:30)  
MAIL:info@e-kabunushi.com